

自衛隊海外派兵・武力行使、憲法改悪に道をひらく



衆議院「比例定数削減」に反対しましょう！



■「経費削減」のためは本当？

いま、民主党は「経費節減」を理由に衆議院の比例定数部分（180議席）を80も削減しようとしています。

■ 本当に、日本は議員が多すぎるのでしょうか？

実は、人口比率での国会議員数は、日本はカナダの約半分しかありません。ヨーロッパ諸国も人口比率で日本より多い国が大部分です。「経費節減」は口実に過ぎず、比例削減は隠された重大なねらいがあるのです。

■ 比例定数が削減されれば、憲法9条守る意見は少数に…

もし、比例80議席削減が実施されると、8月の総選挙の投票率では、社民党は4議席が0に、日本共産党は9議席が4に減少してしまいます。これでは、国会内では今でさえ少ない憲法9条を守りかす立場の意見が、殆どゼロになってしまいます。

そもそも、「小選挙区制」自体が民意をねじまげる極めて非民主的な選挙制度です。その非民主制を少しでも和らげる装置として「比例」部分があります。この比例部分を大幅に削減など、とんでもありません。

■ 鳩山氏は改憲派、小沢氏は海外派兵推進派

また、内閣法制局長官の答弁を制限する国会法「改正」法案を臨時国会に出すといっています。これまで、内閣法制局長官の国会答弁では、一方では、少しずつ自衛隊を海外に派兵することを容認しつつ、他方では、集団的自衛権の行使は、憲法9条に違反するとしてきました。鳩山首相や小沢幹事長は、こうした内閣法制局長官の国会答弁がめざわりなのです。

こうした一連の動きの根底に、鳩山首相が、自民党と同様、もともと明確な憲法9条2項改憲派であるという事実があります。また、小沢幹事長は、国連決議のもとなら、自衛隊を海外派兵し、武力行使することを積極的に主張しています。アフガニスタンでは、ISAF（国際治安支援部隊）は、国連決議に基づいていますが、いま、アメリカと並んで一般市民を無差別空爆して大きな批判を浴びています。

